

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-60530

(43) 公開日 平成8年(1996)3月5日

(51) IntCl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

D 0 6 H 1/04

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平6-210738

(22) 出願日 平成6年(1994)8月12日

(71) 出願人 000163121

極東産機株式会社

兵庫県龍野市龍野町日飼190

(72) 発明者 松井 康明

兵庫県龍野市龍野町日飼190番地 極東産
機株式会社内

(72) 発明者 頃安 新

兵庫県龍野市龍野町日飼190番地 極東産
機株式会社内

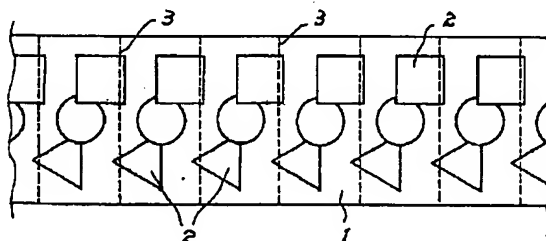
(74) 代理人 弁理士 役 昌明 (外1名)

(54) 【発明の名称】 布 地

(57) 【要約】

【目的】 反復する図柄の生地を機械によって、自動的に図柄に合わせて裁断すること。

【構成】 一定の間隔で反復する図柄2を有する長尺の布地1において、反復する基準位置に機械的に認識できるマーク3を設けたものである。このマーク3には、蛍光染料で染めた経糸および/または緯糸が適し、紫外線を照射することにより機械的に認識することができる。



(2)

特開平8-60530

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 一定の間隔で反復する図柄を有する長尺の布地において、反復する基準位置に機械的に認識できるマークを設けたことを特徴とする布地。

【請求項2】 マークが、蛍光染料で染めた経糸および／または緯糸であることを特徴とする布地。

【請求項3】 マークが、導電性の経糸および／または緯糸であることを特徴とする布地。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、同じ図柄を反復して設けた布地に関し、特に、図柄の反復する基準位置を機械的に認識し得るように構成したものである。

【0002】

【従来の技術】 図柄を有するカーテン生地を一定の寸法に裁断してカーテンを仕立てる際に、反復して表れる図柄を合わせるように裁断しなければならない。生地の図柄は、多種多様であって、図柄の縦横方向の反復する間隔も様々であり、しかも、布地は伸縮するから、図柄が合うように注意して裁断しなければならない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 反復して表れる図柄が合うように機械による裁断の自動化が望まれている。コンピュータによるパターン認識の技術が進歩しているが、多種多様な生地の図柄を認識することは困難であり、しかも、費用の点で普及する見通しもたっていない。

【0004】 そこで、この発明は、このような図柄の生地を機械によって自動的に図柄に合わせて裁断するために考えられたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 一定の間隔で反復する図柄を有する長尺の布地において、反復する基準位置に機械的に認識できるマークを設けたものである。このマークには、蛍光染料で染めた経糸および／または緯糸が適する。

【0006】

【実施例】 図1に示すように、一定の間隔で反復する図柄2を有する長尺の布地1において、図柄2の反復する基準位置に機械的に認識できるマーク3を付す。

2

【0007】 マーク3としては、美観を損なわないものであって、例えば、蛍光染料で染めた糸を使用する。そして、この糸を経糸および／または緯糸としてなるべく表面に表れないように、図柄2の反復する基準位置に1本または数本をマーク3として織り込む。

【0008】 裁断する際に、布地1に紫外線を照射すると蛍光を発するので、この蛍光を透過するフィルタを経て光電変換素子へ入射させることにより、図柄2の反復する基準位置を機械的に認識することができる。したがって、このマーク3に基づいて送られてきた布地1のマークを機械的に認識して裁断するように構成すれば、機械による自動裁断が可能になる。

【0009】 マーク3として、アルミ線のような柔らかい金属細線を図柄2の反復する基準位置に1本または数本を織り込んでおくと、金属探知機によって認識することができ、しかも、裁断刃物に悪影響を及ぼすことはない。

【0010】 また、マーク3として、炭素繊維などの導電性の繊維を図柄2の反復する基準位置に1本または数本を織り込んでおくと、高周波の電波を照射することにより認識することができる。

【0011】 なお、プリントで図柄を付した布地においては、図柄の反復する基準位置に人目につき難い蛍光染料などによってマークをプリントしてもよいのである。

【0012】 このようなマーク3は、裁断に使用するだけではなく、縫い合わせる際にも使用して図柄を合わせたカーテンなどを仕立てることができる。

【0013】

【発明の効果】 以上の実施例に基づく説明から明らかなように、この発明の布地によると、反復して表れる図柄を有する布地であっても、人手によることなく、図柄に合わせて機械的に裁断したり縫い合わせることができる。

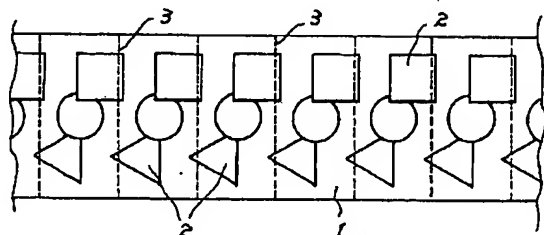
【図面の簡単な説明】

【図1】 この発明の布地の一実施例を示す平面図である。

【符号の説明】

- 1 布地
- 2 図柄
- 3 マーク

【図1】



(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **08060530 A**(43) Date of publication of application: **05.03.96**

(51) Int. Cl.

D06H 1/04(21) Application number: **06210738**(22) Date of filing: **12.08.94**(71) Applicant: **KYOKUTO SANKI CO LTD**(72) Inventor: **MATSUI YASUAKI
KOROYASU ARATA**(54) **FABRIC**

(57) Abstract:

PURPOSE: To automatically cut a fabric having a repeating figure pattern according to the figure pattern with a machine.

CONSTITUTION: This fabric is obtained by providing mechanically recognizable marks 3 at recurring reference positions in the fabric 1 of a continuous length having figure patterns 2 recurring at a prescribed interval. Warp yarns and/or weft yarns dyed with a fluorescent dye are suitable as the marks 3 and can mechanically be recognized by exposure to ultraviolet rays.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

